

この度、富山大学付属病院齋藤滋院長をはじめとする外部有識者4人の委員で構成される改革プラン評価委員会において、平成29年度の実績状況を点検・評価したので、その結果を公表します。なお、詳しくは、病院ホームページ
(<http://www.kamichi-hosp.jp>)をご覧ください。

達成状況の区分 A：目標以上 B：一定の実績(目標の8割以上) C：実績不足

財務に係る数値目標

主な数値目標	平成29年度			平成30年度
	計画値	実績値	達成状況	計画値
経常収支比率	98.0%	94.9%	B	99.0%
医業収支比率	90.3%	91.4%	A	92.0%
不良債務比率	0%	0%	A	0%
病床利用率(一般)	81.3%	76.2%	B	81.8%
病床利用率(回復期)	80.0%	73.6%	B	80.0%
病床利用率(精神)	64.7%	60.0%	B	68.0%
患者1人1日当たり診療収入(入院)	34,390円	34,205円	B	34,492円
患者1人1日当たり診療収入(外来)	10,384円	10,256円	B	10,455円
医業収益対職員給与比率	63.9%	68.6%	B	63.1%
医業収益対薬剤費	11.3%	10.5%	A	11.0%
医業収益対診療材料費	5.9%	5.5%	A	5.8%
医業収益対委託費	11.8%	12.7%	B	11.7%

取組内容

- ・経常収支比率は、平成28年度と比較して2.1%改善したものの、計画値を下回った。一方で医業収支比率は9.2%改善し、計画値を達成した。
- ・病床利用率は、回復期の14.5%増をはじめ、平成28年度と比較してすべてにおいて上昇したが、計画値を達成するまでには至らなかった。
- ・患者1人1日当たり診療収入は、ともに計画値を下回ったが、外来は栄養や特定疾患などの指導を積極的に取り入れ、平成28年度と比較して202円の増となった。入院の診療収入の減は、手術数の減によるもの。
- ・薬剤費は、院外処方推進により年々減少しており、計画値を達成している。
- ・給与比率は、平成28年度と比較して1.3%減となった。しかし病院機能維持のため職員および非常勤医師を増強しているため、計画値まではかなりの開きがある。

医療機能に係る数値目標

主な数値目標	平成29年度			平成30年度
	計画値	実績値	達成状況	計画値
1日平均患者数(入院)	149.2人	142.3人	B	152.0人
1日平均患者数(外来)	485.5人	465.1人	B	489.2人
紹介率	27.0%	24.7%	B	28.0%
分娩件数	120件	99件	B	120件
外来患者満足度	85.0%	78.1%	B	85.0%
入院患者満足度	85.0%	86.4%	A	85.0%
在宅訪問診療回数	710回	903回	A	720回
在宅復帰率(回復期)	80%	88.6%	A	80%
救急車受入件数	550件	463件	B	550件
手術件数	800件	703件	B	800件
認定看護師数	11人	10人	B	12人

取組内容

- ・平成29年度は入院患者数が増加した一方で、外来患者数が減少した。
- ・紹介率は、リハビリ目的での患者の増などにより、3.3%増となった。紹介率を高めることは、入院患者数の増加につながるため、地域連携を中心に紹介患者の確保を図っていく。地域連携並びに退院支援を活発に行っているものの、富山市内の各種病床機能の充実が影響し、紹介患者に対する吸引力が低下している。今後は、生活支援のリハビリテーションなど当院の特色をさらに理解いただくような活動が求められる。

【評価委員の評価・指摘事項】

- ・訪問看護スタッフ・介護スタッフが少なく、住民の要求をすべて満たすことは難しいが、お互いに連携をとって今後も継続していただきたい。
- ・救急対応と困った際に治療してくれる病院として、求められる地域医療の役割を十分果たしていると評価できる。
- ・経営収支で前年度に比べ改善しているものの、約2億円の赤字を計上している。一番のネックは、給与費と経費のコストアップである。そろそろ業績評価を加味した給料体系への移行も検討が必要と思われる。
- ・在宅医療の連携も在宅医療支援病院もいずれも必要である。
- ・今後の病院経営に関して、回復期病床数を増やしたほうが良いと思われる。
- ・かみいち総合病院の基本理念「住民が安心して地域で暮らし続けるための医療の砦として私たちの病院が存在する」を再認識すべきである。

●数値目標達成に向けての具体的な取組

1 収入増加・確保対策(主なもの)

内容	平成29年度			平成30年度	備考
	計画値	実績値	達成状況	計画値	
入院外来収益の増収	32億7,409万円	31億1,823万円	B	33億3,222万円	外来収益減の一方で、入院収益は増収
病棟薬剤師配置による増収	1,400万円	1,310万円	B	1,400万円	入院患者数の増による影響
管理栄養士配置による増収	300万円	247万円	B	300万円	栄養士による指導強化
リハビリテーションの充実	2億900万円	1億8,523万円	B	2億900万円	入院患者数の増による影響
健診・ドック利用者の拡大(年間健診センター利用額)	8,000万円	9,467万円	A	8,000万円	土曜レディース健診、営業活動の効果による増
未収金の徴収強化	200万円	175万円	B	200万円	徴収専門員などによる徴収強化、法律事務所に回収委託

2 経費削減・抑制対策(主なもの)

内容	平成29年度			平成30年度	備考
	計画値	実績値	達成状況	計画値	
SPD・共同購入による経費節減	対前年度比で△200万円	対前年度比で+122万円	C	対前年度比で△400万円	SPD業者切り替えによる在庫処分の発生
時間外勤務手当の抑制	対前年度比で△141万円	対前年度比で+250万円	C	対前年度比で△146万円	時間外勤務の増
全体の薬品費の削減	対前年度比で△50万円	対前年度比で△141万円	A	対前年度比で△50万円	院外処方せん発行率、ジェネリック医薬品採用率の増
業務委託の内容および金額の見直し	対前年度比で△200万円	対前年度比で+552万円	C	対前年度比で△200万円	MRIなどの医療機器の保守費用の増

当院では、「住民が安心して地域で暮らし続けるための医療の砦として私たちの病院が存在する」を基本理念に掲げ、中新川郡内で唯一の公立病院として、急性期機能を維持しつつ、在宅医療までの切れ目のない地域包括ケアシステムの構築に取り組んできたところです。

平成29年度病院改革プランにおいては、地域包括ケア病床の導入については、導入を計画していた回復期病床の病床利用率が改善傾向となったため、平成30年度中の取り組み事業として再協議することとしました。

常勤医師に関しては、外科医師2名が退職するなど依然として深刻な医師不足が続いており、特に外科や泌尿器科では常勤医師の確保ができず、富山大学などからの非常勤医師の派遣によって外来枠を確保している状況です。大学医局への依頼に加え、民間の医師紹介会社を活用するなど医師不足解消に向けて鋭意取り組んでいますが、確保するまでには至っておらず、安定的な経営基盤を構築するうえでも外科の常勤医師の確保は喫緊の課題となっています。

今後も地域医療構想を踏まえ、救急、出産、へき地医療といった行政サイドからの要請を担うとともに、訪問診療・訪問看護に代表される在宅医療の機能を強化し、地域包括ケアシステムへの取り組みをさらに推進していきます。

■お問い合わせ かみいち総合病院事務局 総務課 ☎472-1212